

## ～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

### ◆VCN°12 ピエール=オリヴィエ・ボノーム

生産地方：ロワール

### 新着ワイン3種類♪

#### AC トゥーレーヌ ヴァンクウール 2016 (白)

2016年は、4月の霜の被害と8月の猛暑により平均収量は20 hL/haと例年の60%減…。夏の日照りの影響によりブドウの成長にブレーキがかかったが、収穫をじっくりと待ったおかげで、最終的にはボリューム豊かなワインが出来上がった！今回のワインの特徴はとにかく香りが華やか！開けた途端から甘い花の香りや桃の香りが立ちあがる！ボノーム曰く、ワインが力強くリッチなので、フレッシュさと爽やかさを引き立たせるためにしっかりとしやして飲んでほしいとのこと！

#### VdF ロルモー・デ・ドゥ・クロワ 2016 (白)

2016年は、4月の雹の被害とミルデュエの被害で平均収量が10 hL/haと80%減…。500 Lの樽一樽分しかできなかった。以前はAC トゥーレーヌを申請していたが、ワイン量も少なく、今はロルモーの名で十分認知されていることから2015年以降申請を止めている。2016年は残糖1 g/L以下の辛口に仕上がったが、味わいはとてもフルーティーでほのかな甘みすら感じる。ボノーム曰く、フレッシュな果実味を活かすために熟成は短め。優しくチャーミングな味わいは、食中だけではなくアペリティフからデザートまで幅広く使えそうだ！

#### AC クール・シュヴェルニー 2015 (白)

前年のファースト・ヴィンテージは、ソーヴィニオンやピノノワールを買っているドルレアンからロモランタンを買っていたが、供給が不安定なこともあり、2015年からビオ栽培者ジェローム・ショケットから買っている。ボノーム曰く、ショケットのロモランタンはテロワールに恵まれていて、かつ畑の仕事も厳格なのでこれから期待ができるとのこと！出来上がったワインは果実の削ぎ落されたキレのある酸とミネラルがあり、まるでピュアなミネラルエキスを飲んでいるような心地良さがある！ダシのような滋味深い味わいはシンプルな素材を使った魚介料理や温野菜と良く合いそうだ！

### ミレジム情報

2015年は、白は2009年や2005年に匹敵する当たり年！春のスタートは雨も比較的多く涼しい気候で、発芽もやや遅れていたが、5月に入り雨の降らない乾燥した天気が8月いっぱいまで続いた。夏は猛暑と日照りの影響で順調に成長していたブドウも夏バテ気味になり、成長にブレーキがかかり始めた。9月に入り恵みの雨となる50 mmのまとまった雨が収穫前に降り、水不足のブドウの渴きを若干潤してくれた。収穫の前半は雨もなく、潜在アルコール度数の高い完熟したブドウが採れたが、後半から天気が崩れ赤のブドウはほぼ雨の中での収穫となった。ただ、ロモランタンは収穫前に雨が止み、最終的に傷一つないきれいなブドウを収穫できた！

2016年は、霜と猛暑の影響でブドウの収量が激減した年。冬は暖冬で春も比較的暖かかったため、ブドウの発芽がいつもより早かった。だが、その早い芽吹きが仇となり4月末に襲った遅霜に最初の芽の大部分がやられた。その後予備の芽が再び発芽したが、ブドウの房が付いているものは少なかった。その後5月まで不安定な天候であったが、6月に入ると雨は止、一転し乾燥した天候が続いた。7月下旬から8月にかけて気温が40度を超える猛暑日もあり、一時はブドウの成長にもブレーキがかかったが、8月下旬に適度な雨が降ってくれたおかげで、再びブドウは成熟に向かった。

## 「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① シュヴェルニー・ピノの畑

この写真はボノームのシュヴェルニーのピノワールの畑だ。(写真①) 畑はブロワの森に接しており、また周りに隣接する畑はなく、ビオやビオディナミでブドウを栽培するには絶好のロケーションにある。ボノーム曰く、今年4月に自社畑の90%が霜の被害に遭った中で唯一霜を免れた区画とのこと。今回降りた遅霜は北風が冷たい空気を運んだ影響もあるのだが、ちょうどブロワの森が風の盾となり霜を防いでくれたようだ。

現在は、開花も無事終わり、たわわに房を实らせている。(写真②) この畑は、写真①でも分かるように畝と畝の幅が広くブドウの背丈も高い。通常ロワールでは畝の間隔が1.5m前後であるのに対し、このシュヴェルニーは3mもありボノームの所

有するトラクターでは規格が合わない。そのため土を耕せる範囲は畝道の真ん中だけで、木と木の間の雑草刈りは常に手作業となる。「畝の間にもう一列ずつ植樹をして収量を増やせないのか？」もし植樹ができれば、トラクターの作業もしやすく、収量も増えて一石二鳥だと思いき、ボノームに尋ねてみたが、「ブドウの木自体が高く仕立てられているので、トラクターが木を跨いで通ることができない」のだそうだ。ちなみに、このピノワールの畑は、自社畑と言っても、実際は借りているだけで別に畑のオーナーはいる。そのオーナーはすでに畑仕事から引退しているが、他にもいくつかシュヴェルニー周辺に畑を所有している。この中で、この幅の広く高く仕立てたブドウ畑はここだけだそうだ。



写真② シュヴェルニー・ピノの果房

「作業の効率以前に、この区画は、そもそも森に適応するように敢えて幅広く仕立てられている」と言うボノーム。森は霜や暴風雨の被害から守ってくれるメリットがあるが、逆に森に囲まれていることによるデメリットもある。例えば、森が風を防いでくれる一方で、湿気が溜まりやすいことや、森が近いことで動物、鳥などにブドウの芽や房が食べられやすいことがあげられる。畝の幅を広くとり、高く仕立てることで、風の通りが良くなり病気が繁殖しづらくなる。また、日陰の部分が少ないため、日照量を稼ぐことができる。さらに、丈が高いことでウサギなどの小動物に芽を食べられるリスクが減り、幅があることで鹿などの隠れる場所を少なくできる、とデメリットに対応するためにあえてそうなっているのだ。

今更ながら、それぞれ適した環境に合わせたブドウの仕立てがなされているという当たり前の事に妙に感心させられた。知識も大事だけど、やっぱり経験則に基づく知恵は偉大だと感じる今日この頃だ！

(2017.5.10&6.29.ドメーヌ突撃訪問より)